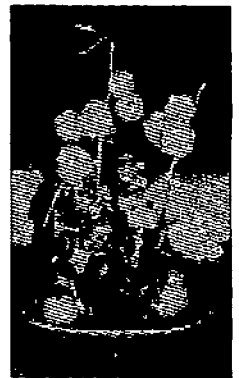


# サロンあへの

## さわる生花



### 視覚障害者が手でみる生花を楽しんでいます

〈サロン・あへの〉9月の出会い  
 平成16年9月18日(土)、(サ  
 ロン・あへの)9月の出会  
 いは、手で「さわる生花」と題し  
 て宇根山千恵子さんと橋本佐知  
 子さんにお話を伺いました。

〈サロン・あへの〉9月の出会い  
 行動が出来るようになったので 習いたいと考えていた。10年  
 前、そのことをYMCAに関係  
 している未生流中山文甫会の人  
 に話をしたところ、視覚障害者  
 のための生花をやりましよう  
 と快諾され、トントン拍子に講座  
 が始まった。

前、そのことをYMCAに関係  
 している未生流中山文甫会の人  
 に話をしたところ、視覚障害者  
 のための生花をやりましよう  
 と快諾され、トントン拍子に講座  
 が始まった。

習い事  
 当初、先生は鉢は危ないか  
 ら、花を寸法にあわせて切つて  
 から手渡しする生け方を教えよ  
 うと考えておられた。が、それ  
 なら家で花を生けられないので  
 花屋から届いた状態から教えて  
 ほしいとお願ひした。花器の大  
 きさに合わせて体(中心)にな  
 る花の丈を決め、用(添え)・副  
 (留め)とそれぞれの長さを決  
 めて切り、生けていく。1本の

きっかけ  
 橋本佐知さんは昔からお花  
 が好きで生け花を習いたい  
 思っていた。が、視覚障害を理  
 由に習えなかった。宇根山千恵  
 子さんもお花が好きで子育てが  
 終わり、盲導犬エールと一緒に

きっかけ  
 橋本佐知さんは昔からお花  
 が好きで生け花を習いたい  
 思っていた。が、視覚障害を理  
 由に習えなかった。宇根山千恵  
 子さんもお花が好きで子育てが  
 終わり、盲導犬エールと一緒に



生け上がった花を前に、宇根山千恵子さん（右）と橋本佐知子さん

花であれば分かりやすいが小菊のように集まっている花は難しい。花の角度と空間の扱いなど先生が生けられた見本を下側から順番に手で触っていきながらその日の生け花の形をイメージして生ける。先生も最初は枝の角度など言ってくれていたが、

最近では言ってくれない。お花を生けている間は楽しく自分の世に浸っている。お稽古は月1回午前10時から12時までで、初めのころは2時間半ほどかかっていたが、今では11時頃には生けあがるようになった。甲斐

あつて、お正月の花は自分で生けられるまでになつた。

### 「むらさきつゆくさ」10周年記念展

今年6月に「むらさきつゆくさ」10周年の展示会をした。

このイベント時のお手本は一切なく、各自が違う花で、花の種類も多く、生けるのに苦心をしたが、イメージを膨らませ

て生けていった。その作品は多くの人達に見てもらえた。

10年間習い続けてよかったと思うことは、友人が増えた事。

人からお花をもらった時、1輪差しにも

楽しむながら生けられること。また、花の裏表を知った事。花の首を触ると花の向きが分かる。日が当たる方向に花は顔を向けて

る。葉の陰陽も日の当たる方向で分かる。

この日、「むらさきつゆくさ」の会10周年記念・手でみるいけばな」展の写真や日頃のお稽古の生け花を見せていただいた。

お稽古の花は、同じ花を生けるが人によって真ん中に生けているもの、分散して生けているもの、分散して生けているもの、分散して生けているもの

サロンの

# 一筆箋

一冊一〇〇枚綴 一五〇円

のなど十人十色の作品があった。

### お見事

橋本佐知子さんのお話を伺っている間に、宇根山千恵子さんが笹船形の水盤にフウセンカズラ・リンドウ・キクの花で空間をイメージしながら生けてくだ

東淀川視覚協会・誕生30周年

《ハリアフリーコンサート》開催のお知らせ

日ごろ福祉・障害者活動を行っている視覚障害者が中心に音楽や詩吟など文化活動を開催いたします。どなたでもご覧いただける気軽な集いです。皆様方には”観客ボランティア”としてご参加いただきますようお願い申し上げます。



日時：平成16年10月31日(日)

午後1時～5時ごろまで(予定)

会場：つどいホール

(社会福祉法人ノーマライゼーション協会 = 大阪市東淀川区淡路3-13-37)

TEL 06-6328-2941

出演：□ 演歌歌手 石浜みどり

(失語症を克服してプロ歌手に)

□ レインボー

ピアノとフルート・バイオリン

□ スイートポテト

フォーク・グループ

□ 詩吟 数名

司会：重光万石(昭和プロ所属)

出店コーナー：たこ焼き・焼きそば・おでん

など 飲み物=ビール・

ジュースなど

会費：無料

主催：(社)大阪市視覚障害者福祉協会

東淀川分会

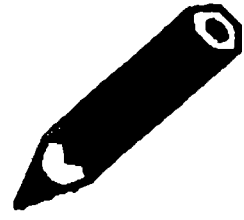
後援：東淀川区身体障害者団体協議会

さった。みごとに剣山に立てていかれる手際の良さ、出来上がった作品はフウセンカズラが涼しげにゆれて、リンドウの青と黄色のキクがすつきりと気持ちよく生けられていました(一頁見出し写真)。

参加者の方々には生け上がった作品を目で鑑賞していただき、目を閉じて、手で触れて感触を確かめたりしていただきたりしている」

この日の参加者に、聴導犬「みかん」ちゃんのユーザーの岸本夫妻もおられて、盲導犬エールのユーザーの宇根山さんと手話通訳を介しながら話はずみしました。(みかんちゃんは、残念ながらこの日は不参加)日常生活の話や盲導犬エールの話、聴導犬みかんの話など、今回は生花以外に、肢体・視覚・聴覚の障害のある方がお互いの参加者27名+エール(山村貴司)

9



## 邦子、 ..ん歳の手習い。

### 重度障害者の自立生活

#### —水俣病問題から学ぶもの—

9月になると大学では集中講義がはじまりました。私も共生論史という講義を5日間受けてきました。講師はNPO法人水俣病フォーラム代表の栗原彬先生で、水俣病について考える機会を得ました。

水俣病を包む不知火海は、沿岸漁民の主食ともいうべき魚介類の宝庫でした。水俣病は工場廃水に含まれた有機水銀が不知火海一帯

の住民に健康障害を及ぼした公害病です。

1956年に最初の患者が確認され、1959年に熊本大学医学部が原因として有機水銀説を発表しました。しかし、チツソ株式会社は、一部の死亡者に見舞金をおくるだけで責任を認めずに、排水を流し続けました。政府が公式に水俣病の原因をチツソの工場排水にあると認めたのは、1968年5月にチツソ水俣工場が原因物質であるアセトアルデヒドの製造を中止してから後の1968年9月で、水俣病が公害病として認められました。水俣病患者確認から政府公式承認まで、12年間原因不明を理由にチツソと政府が対策をとらなかつたため患者は増え続け、世界史上最大最悪の公害となりました。そして、患者だけでなく家族も結婚や仕事、交際などで差別を受けることになりました。

栗原氏は、水俣病は、第1には、患者救済よりも豊かさのイデオロギーと効率優先を先行させてきた企業と行政による加害、第2には「水俣病の原因は不明」「水俣病は終わつた」などと、受難者の存在を抹消した専門家、学界、行政、第3者機関による加害、第3者には市民の生活防衛の意識、生活保守主義に

基づく市民、住民による加害をあげています。

第3の市民や住民による差別や排除は、患者をさらに苦しめるものとなりました。患者が魚介類を日常的に食べる漁民層に集中していたことやチツソが地元の住民を多く採用している有力産業であったことから、市当局を始め、被害を受けなかつた市民の大多数は水俣病の問題をタブーとするようになり、チツソの加害行為に触れるような場合は患者を無視する方を選びました。

しかし、そのような状況の中でも、個人的に患者の側に立ち続けた人も少数いました。そして、この人々の地道で忍耐強い組織化の努力によって、水俣病発生から15年目の1968年に水俣市民による初めての患者支援組織である水俣病対策市民会議が結成されました。その発足のお知らせの中には、10数年間患者を放置していたことに対する水俣市の一市民としての心からの謝罪が含まれていました。1969年には患者29世帯がチツソを被告とする民事訴訟を提起するに至りました。そして、1996年に政府の解決策により1万2371名の患者が認定されましたが、政府はその責任を明確にすることは認めません

でした。栗原氏は水俣病者の恒久的救済が行われていないなどから、水俣病はまだ終わっていないが、ボランティアな市民活動を含め地域の協同性の始まりでもあると示唆しています。

水俣病患者当事者に大きな力を与えたのは支援者の存在であったということをも水俣病問題から感じました。先日、岸田美智子さんに障害者の自立生活についてのお話を伺った時に、グループホームのための家探しは大変で、60軒目に初めて貸してくれる大家さんを見つけたということでした。そして、地域のグループホームで障害者が生活し始めることによって、障害者について知らなかった地域の人たちとの交流も生まれ、近所のスーパーのレジは車いすで使えるスペースがいつの間にかできていたということが思い浮かびました。地域の中で障害者が自立生活をするためには、介助の公的な保障やバリアフリーの問題などを目指して当事者自らの働きかけや運動が基本ですが、それを支える支援者や地域の理解が不可欠であり、それが障害者に大きな力を与えてくれるのではないのでしょうか。

(定藤邦子)

今年の中秋の名月（十五夜）は9月28日である。この時期が1年中でもっとも月が美しく見え、草木も集く虫もそれぞれに澄みわたる月に趣を添えてくれる。

一昔前までは中秋の名月を迎えると、家族そろって月に照らされた明るい縁側で月見だんごや芒などをお供えて楽しく語り合ったものである。でも今はそんな風習もだんだん薄れ、なんだかさみしいような気がする。

「十五夜」とよく似たことばに「良夜」というのがある。この良夜とは、もともと秋の月が

くまなく照らすという意味だったが、今ではもっぱら中秋の名月の夜を指す。良夜といえば数年前の中秋の名月に信州へ旅行した時のことを思い出す。その時、こんな句を作った。

旅宿の窓に映りし良夜かな 恵雄  
信州のホテルの窓から眺めた月は本当に楽しかった。正に名月というのに相応しい。そしてまた何も中秋の名月だけが良夜

というのではなく、毎日が良き夜、いわゆる良夜であればいいのにと、この句を思い浮かべるたびにとりとめないことを考えるのである。

ところで名月に対して「無月」とか「雨月」ということばがよく使われる。無月は雲が出たりして月が見えない場合をいい、雨月は雨が降って月が見えない

場合をいう。ただし歳時記によれば、無月には雨月を含んだ広い意味に用いられることもある。9月28日の中秋の名月には無月でも雨月でもなく、耿々と輝いた月が見られることを期待したい。

## 晴れのち晴れ 73

中秋の名月

稲垣 恵雄



# 不便な個人主義



今月からアメリカに来ている。滞在予定は半年間である。アメリカ人が書いた本を多く読み、テレビや新聞を通して知っていたつもりのアメリカの文化だが、実際に住んでみる

と驚くことがいくつもある。今回からそれをいくつか書いてみようと思う。

アメリカの文化の特徴の一つは個人主義だと言われるが、たしかに個人単位で人々は働いているように見える。実は先日、こちらで中古車を買ったのだが、その店での接客の仕方が日本とかなり違うのである。

日本の店なら、何かを買おうとしたら店の誰かが対応してくれて、その人一人と話せば、すべて済んでしまうことが多いだろう。ところが、私が車を買ったその店は、規模も外見も日本のどこにでもあるような、ごく普通の中古車店だったが、いろんな人が別々の仕事を担当していて、私たち家族の前に現われるのである。

いま思い出すと、車を売るセールスの人と、その代金を受け取る人が別だった。そして車の付属品の説明をする人がまた別にいて、その人は付属品をつける担当の人とは連絡をとっておらず、その人には私たちが自分

## \*好評のエッセイ\*

岡 知史著

知らされない  
愛について

700円

ほんの少しの  
神に近い部分

700円

で直接連絡しろという。

アメリカでの車の運転は経験がないということ「じゃあ、教えてあげましょう」とセールスの人が言うから、その人が教えてくれるのかと思ったら、別の人だった。そして、家まで私たちを送ってくれたのはまた別の人であった。つまり、いろいろな人が私たちの前に現われたのだが、それぞれが違う仕事をしていて、驚いたことには互いに自分の仕事にしか関心をもっていない様子なのだ。しかも店員間の連絡も充分ではないので、なんだか個人がバラバラで働いているという印象を受ける。

## さろん亭、御堂筋で開店

御堂筋は、大阪の北から南に通る大きな幹線道路です。その両側には名だたる大きな会社のビルが立ち並び大阪の顔ともいわれるオフィス街です。歩道にはビルに負けない高さの銀杏並木が続いて、爽やかな風と木漏れ日が道行く人に元気を与えてくれているような雰囲気を感じられる街です。その一画に大阪ガスビルがあり、ガスビルの御堂筋側の軒下で前号でお知らせしました「大阪ガス・チャリティーバザー」が9月16日・17日に開催されました。サロンではこの両日に「さろん亭」の暖簾をかかげて、サロングッズと手作り作品の販売をしました。机一つのお店でしたが、朝9時から夜の7時まで「いらっしやいませ」の声かけを道行く人にしながら、日頃見慣れない人の流れを楽しみました。時間帯によって、人の流れがさまざまに変化してゆくのです。背広姿が多い時間、制服姿が目につく時間、その間を縫うように自転車が右に左に通り過ぎて行きます。お客様は、ビルにお勤めの方やカルチャーセンターに来られている雰囲気のご婦人方、通りすがりの方などでした。店先に立ち止まられる方は何かしら品物を求めてくださいますが、多くの方々はそれぞれの目的があって動いておられる感じがしました。2日間、延べ人数8人が「さろん亭」に関わり11,555円の売上げを得る事ができました。ご協力いただきました皆さま、ありがとうございました。(け)

## ……ききみみずきん

その結果どうなるかという、私たちは次に何をしたらいいのか、誰と話をすればいいのかを自分で考えなければいけなかった。たとえば、私たちが支払う代金を受け取れば、経理の人の仕事は終わり、私たちは互いに無縁の人となる。「ありがとうございます」と言われて、その後は放っておかれる。私たちは黙って店のなかで座っていたのだが、いつまで待っても誰も私たちに関心をもってくれない。偶然とおりがかった経理の人に「あれ、

まだいたのですか」と微笑みかけられ、ようやく、ここでは日本の常識が通用しないのだと気がついた。客にとつては不便この上ない仕組みだが、同じ職場に長くともまらないこの国の人々とつては便利なことだろう。各自が自分の仕事だけをして組織全体の仕事は知らなくて良い。そういう社会だからこそ、職場を転々としてもすぐに順応できるわけである。アメリカにはいろいろな「専門家」を生み

出す文化があつて、福祉の分野でも新しいタイプの「専門家」が次々に出現しているようだが、それには個人が自分だけの仕事をしていればよいという、このような職場の風土が関係しているのかもしれない。しかし、そういう「専門家」ばかりの社会は、そのサービスを受ける側にはきつとたいへん不便なものになるだろう。「専門家」が増えることの損失について考えるヒントとなる体験であつた。(知)

# 美智子のこんな話

岸田美智子

障害者の生活が危ない！

前回、このコーナーで支援費制度と介護保険の統合問題について、書かせてもらいましたが、今回もこの件について関西実行委員会と予定などをお知らせします。

厚生労働省は、この間私達障害当事者との話し合いを打ち切り、またこの統合問題を取り上げるマスコミ関係者の出入りを禁止してきたりしています。そんな厚生労働省の態度に、負けずに声を上げて行動していこうとしています。

支援費と介護保険の違いはいろいろありますが、元になる理念そのものが違うと思えます。支援費の財源は税金から出来ており、障害者の支援を国の制度として保障していこう

とするものですが、介護保険は障害者にな

ったのは自己責任なのだから個人で保険料を払って必要なサービスを買いなさいという事です。この考

え方は、障害者の自立生活運動が30年かかって作り上げてきた考え方を一挙に覆してしま

うものです。

今こそ、私達は行動を起こし、社会に訴えていかなければならないと思います。その一

つとして、関西実行委員会の呼びかけに一人

でも多くの皆さんの参加をお願いします。

具体的には、

○10・20（水）全国大行動―東京へ！

全国の仲間と共に、厚生労働省や国会議員、

マスコミに私たちの思いを主張しよう！

10月20日12時集合。デモと国会議員への働き

かけ、マスコミへの訴え。厚生労働省への要望

活動を行っていきます。みんなで力を合わせて闘いましょう！

○11・3（水・祝）全関西御堂筋デモ！

道行く市民に訴えよう！

当日は、10000人規模のデモを目指して

ます！ みんなで訴えましょう！

日程 11月3日（水・祝）12時～16時

12時 扇町公園集合（集会）

13時 デモスタート（御堂筋）

16時 解散（予定）難波

○各団体・地域でさまざまな取り組みを進めていこう！

☆各団体・地域で学習会を開いていこう！

☆議員に対して働きかけていこう！

☆マスコミに訴えていこう！

☆機関紙や通信を通して仲間に伝えていこう！

☆ゼッケンやプラカードなどいろいろな工夫

をして作っていこう！

連絡先（実行委員会）

障害者の自立と完全参加を目指す大阪連絡会議

〒543-0007

大阪市天王寺区生玉前町5-33

大阪府障害者社会参加促進センター内

TEL 06-6779-8126

FAX 06-6779-8109

E-mail t-furuta@saturn.di.ne.jp



「サロン・あべの」5月号を読んで

支援費制度の中で利用者本位のサービスが行き届いておらず、自己選択、自己決定の理念から外れている実態は私も納得のいかないところがあり、共感いたします。

私は施設職員としてサービスを提供する立場にありました。お風呂やリハビリが週2回というサービスは利用者やご家族から不満の声が上がつてきます。

しかし、今の法律での利用者に対する職員の割り当て人数では、これ以上のサービス提供は事故を起こしかねないのが現状です。利用者にもこのことを理解していただきたい。職員に「サービスの提供を増加してほしい」「職員をもっと雇えばよい」と訴えられても、職員の割り当て人数を超える雇用や、労働基準を超えてのサービスは施設内で検討することではないということ。

病院で回復期リハビリを20分〜40分受けていた患者が、通所リハビリ（デイケア）に同じ訓練を求めてこられた事がありました。ケアマネージャーや支援相談員の認識不足もあ

り、施設リハビリを全く理解されていなかった。ご家族はひどくご立腹で、施設に苦情の手紙をいただいたのです。

病院では1人のセラピストで1日に20人の訓練を担当できます。しかし、施設のセラピストは1人で1日100人を担当するのです。当然リハビリの内容は異なるものです。病院も施設も「人間らしい生活への復帰」という考えに違いはありませんが、病院では「手・足・言語などの動きの改善」をめざすのに対して、施設では「手・足・口などの動きが不十分であっても、障害のある状態でも有意義に時間を使えるよう

に、役割をみつけたら、趣味をみつけれ」などの復権を図ります。

私が言いたいのは、サービス提供者である職員にも人権がありそのため利用者のニーズに合わせて割り当て人数を改善する必要があるということ、そして、サービス紹介者の中にもサービスの目的や実施内容を正しく理解しないまま利用者に伝えている現状があるということ、つまり、法律そのものの改定と専門家教育の見直しこそ、これからは訴えていくべきではないかということだと思います。いかがでしょうか？

金光弓子（阿倍野区）

お知らせ

<サロン・あべの>11月の出会い

内容…日本におけるコミュニティガーデンの設置・運営に関して

お客さま…林 典生氏

日時…11月20日（土）午後1時～4時

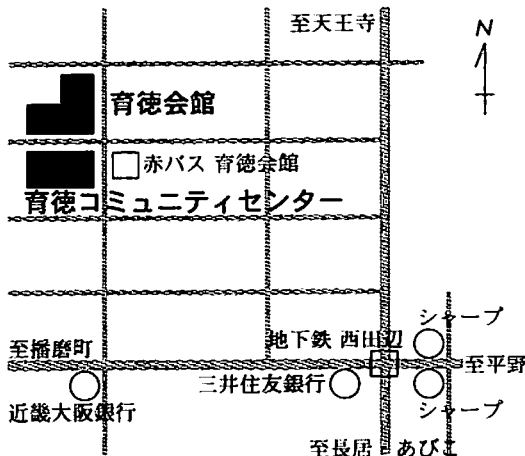
場所…育徳コミュニティセンター2階  
研修室（スロープ・車いすトイレ有）  
大阪市阿倍野区阪南町5-15-28  
TEL 06-6621-1901  
最寄り駅＝

地下鉄御堂筋線「西田辺」  
赤バス「育徳会館」下車すぐ

会費…なし

問い合わせ先…

TEL 06-6691-1028（富田慶子）



赤松 昭

# 「谷間」に こだわり続けて

5

「谷間」という言葉の使われ方(その1)

今回から数回、「谷間」という言葉がどのように生まれ、そしてどのように使われてきたのかについて考えてみたいと思います。言葉の起源と変遷をたどる方法はいくつかありますが、ここでは恐らくこの言葉が一番多用されてきた公的な場、すなわち「国会答弁」の議事録を追うことによつてその目的を達したいと思います。

時代は1950年代から60年代にかけて、まだ「保守」と「革新」が、その理念と

政策を、国会論戦の中で正面きつて闘わせていた時代です。1959年、社会党の木下敬友議員が社会保障の理念を厚生大臣に問う中で、次のように言っています。

「資本主義の谷間から貧乏あるいは不幸が発生してきたということからいけば、私は資本主義の政策として福祉の限界を設けてはいけない」

その1年後、池田勇人首相は所信表明演説で次のように語っています。

「待望の国民皆年金もいよいよその完成を目前に控えており、国民年金制度の発足を見るに至ったことは、まことに同慶にたえないところであります(中略)経済の成長途上において、国民の一部が依然光りのあたらぬ谷間に取り残されることのないよう、政府としては周到な努力を惜しまないつもりであります」

さらにそれから5年後、重症心身障害児対策について質問を受けた鈴木厚生大臣は次のように答弁しています。

「この谷間に取り残された気の毒な子供さん方の療育のために520ベッド、全国で10箇所、国立の施設をつくるということの予算

措置を講じたのでございます」

この頃、すなわち60年代半ばまでの国会答弁の中では、福祉と谷間が同じ文脈の中で使われることはあまりありませんでした。多くの場合単独で使われ、「貧困層」「社会の底辺にある」「お気の毒な障害児」という「谷間」に光を当てるのが「福祉」「社会保障」であるという使われ方が主流だったのです。つまり、この頃谷間という言葉は「物事の一歩底」を意味していたわけで、今日、使われる意味合いとは多少違うことがお分かりいただけると思います。

ではこの言葉が「物事と物事の間」を指すようになったのはいつ頃なのでしょう。これについてはまた次回述べたいと思います。

ありがとうございます。

カンバ、お茶・お菓子などのご寄贈ありがとうございました。

黒羽玲子、田邊サカエ、富田万里子、道川内喜美子、茂原直子、原田仁、藤井さゆり、吉岡克彦、その他の方々。(敬称略)



SALOON

関西ニュース

■「サロン淀川」11月の出会い

日時：11月21日(日)午後1時30分～4時  
内容：夢楽(むがく)らいぶ一座ON出前ライブ  
～すべて作詞作曲のギター弾き語り  
ショー～

ゲスト：夢楽(むがく)らいぶ一座  
(山野具則=やまのともりのり・上村亮介  
=うえむらりょうすけ・内田礼=うちだ  
れい)。福祉施設など訪問ライブを展開、  
年間150ステージ以上。

会費：なし

場所：淀川区在宅サービスセンター「やすらぎ」  
大阪市淀川区三国本町2-14-3

問い合わせ先：淀川区社協(ボランティア・ビュー  
ロー) ☎06-6394-2900  
E-mail: sorajii@iris.eonet.ne.jp

■「サロン・にし」11月の出会い

日時：11月13日(土)午後1時30分～4時  
内容：みんなで、手動車いすの介助方法を学  
ぼう!

場所：西区在宅サービスセンター6階  
ボランティア・ビューロー室  
大阪市西区新町4-5-14(西区役所隣)

地下鉄=西長堀駅4-A号出口からすぐ  
市バス=地下鉄西長堀駅からすぐ

☎06-6539-8075

会費：なし

問い合わせ先：関口 ☎090-4281-5641

■「サロン・ひらの」11月の出会い

日時：11月27日(土)午後

内容：未定

会費：未定

問い合わせ先：ひらのボランティアルーム

大西 ☎06-6795-2525

■「サロン・にしよど」11月の出会い

日時：11月27日(土)13:30～15:30

内容：人生ながれ旅

講師：山口益美氏

場所：西淀川区在宅サービスセンター

「ふくふく」大阪市西淀川区千舟2-7-7

☎06-6478-2941

会費：なし

問い合わせ先：中本勝也

☎090-9864-9678

■「ウイズ東淀川」11月の出会い

日時：11月14日(日)午後1時30分～4時

内容：せっかくいただいた障害だから楽しも  
う!～クローン病内部障害者～

10年の結婚歴、大阪難病連会員、大阪  
IBD(消化器疾患を表す)会の会員、  
10年の病歴

パネラー：坪岡照雄氏

会費：なし

場所：東淀川区民会館4階

問い合わせ先：森田真千子

☎・FAX 06-6340-8038

■「サロン・いたみ」11月の出会い

日時：11月20日(土)午後2時～3時

内容：絵手紙を描こう

会費：なし

場所：伸幸苑(伊丹市寺本6-150)

問い合わせ先：高原 ☎072-772-3852

● サロンの

絵はがき ●

5枚1組 ¥180-

声で読書のお手伝い

音訳テープのご案内

音訳グループ「糸でんわ」のご協力で(サロン・あべの)紙第219号の音訳テープが出来ました。

■音訳テープ文庫

- (a) (サロン・あべの)紙は、第1号より第219号までそろっています。
- (b) (サロン・あべの)十周年記念誌「はあとが、はろー！」
- (c) 絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦)
- (d) 「ラジオたんぱ」放送「(サロン・あべの)平成7年5月の出会い」放送分(30分)
- (e) エッセー集「逃げた『ヨナ』～ボランティア活動の周辺～」(岡本栄一著＝糸でんわ音訳)
- (f) 「キミたちだけじゃ困るんだ～身障者だけで旅した十余年～」(山田誠1995・2・22著＝糸でんわ音訳)
- (g) 「金子みすずへの旅」(島田陽子著＝糸でんわ音訳)
- (h) 「夕やけ空のオニヤンマ」(牧口一二著＝糸でんわ音訳)
- (i) 「ガベちゃん先生の自立宣言」(曾我部教子著＝糸でんわ音訳)
- (j) 「セルフヘルプグループ」(岡知史著＝糸で

んわ音訳)

- (k) 「名物 天王寺かぶら」(猿田博創作 難波利三監修＝大阪市立天王寺図書館制作)
- (l) 「知らされない愛について」(岡知史著＝ばけつと音訳)
- (m) 「愛 ひとり旅」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (n) 「奥田真祐美のシャンソン手帳」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (o) 「もうちょっと知っとく? 私たちの阿倍野」(難波りんご著＝糸でんわ音訳)
- (p) 「猫とシャンソン」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (q) 「ほんの少しの神に近い部分」(岡知史著＝糸でんわ音訳)
- (r) 「動くしずかに」(河野勝行編・著＝糸でんわ音訳)
- (s) 「たまごが ポン！」(稲垣恵雄著＝糸でんわ音訳)
- (t) 阿倍野名所旧跡いろはがるた(猿田博＝糸でんわ音訳)
- (u) 交わりのなかで ～ホームヘルパー残像～(加藤みどりさんを偲ぶ文章を作る会著＝糸でんわ音訳)

ご希望の方には、ダビング、または貸し出しをしますので、富田(☎06・6691・1028)まで。

寄りみち



生花は室町時代に立花と挿入花という様式が生まれ、その形態が整ってきたようです。が、江戸時代にこの立花と挿入花の間をいく花が生まれてきます。これが、現在の生花と呼ばれる花で、文化文政時代にその様式が確立されました。単純な中にも格を備え、気品高く仕上がるところから、非常な勢いで普及し、さまざまな流儀が生まれました。今日の宇根山さんの花もルーツはこの頃。思えばロマンを感じますな。(石)

<サロン・あべの>VOL. 220 発行：平成16(2004)年10月16日 定価¥100  
 編集人：<サロン・あべの>運営委員会 表題：中西利香・筆 文中イラスト：石田美禰子  
 事務局：〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方<サロン・あべの>  
 TEL・FAX 06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの 00950-9-26941  
 印刷：セルフ社 〒546-0044 東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F TEL06-6719-8212  
 本紙はホームページでもお読みいただけます。書庫は、<http://pweb.sophia.ac.jp/~t-oka/salon/>